

Title	京大広報 No. 519
Author(s)	
Citation	京大広報 (1997), 519: 389-398
Issue Date	1997-12
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/209214">http://hdl.handle.net/2433/209214</a>
Right	ファイル中には未許諾による非表示部あり.
Type	Others
Textversion	publisher



# 京大広報

No. 519

1997. 12



11月祭前夜祭

## 目次

### 〈大学の動き〉

- 次期総長候補者に長尾 真教授を選出 ……390
- 名誉教授称号授与式 ……391
- 創立百周年記念展覧会 ……391
- 京都大学国際教育プログラム  
開講記念パーティー ……391
- 平成10年度大学入学選抜  
大学入試センター試験の実施 ……392
- 厚生補導（SPS）担当教官研究会の開催 ……392

### 〈部局の動き〉

- 井上民二教授追悼の集い ……392
- 故藤井 學教授追悼式 ……392

### 〈日誌〉 ……393

### 〈栄誉〉

- 田畑茂二郎名誉教授が文化功労者に選ばれる ……393
- 左右田健次名誉教授、浅田浩二名誉教授、  
吉田 修名誉教授、長尾 真大学院  
工学研究科長が紫綬褒章を受章 ……394
- 医学教育等関係業務功労者の表彰 ……396

### 〈訃報〉 ……396

### 〈随想〉

- 大学設置の規制緩和 名誉教授 小林 哲也 ……397

### 〈洛書〉

- 生物の多様性・文化の多様性・学問の多様性  
遊磨 正秀 ……398

### 〈お知らせ〉

- 「白馬山の家」の冬季開設 ……398

京都大学広報委員会

## 大学の動き

### 次期総長候補者に長尾 真教授を選出

現総長の任期満了（12月15日）に伴う次期総長候補者の選考が11月15日（土）開催の臨時評議会において行われ、その結果、長尾 真教授（大学院工学研究科電子通信工学専攻通信情報工学講座担当）が選ばれた。

総長候補者の選考は、「京都大学総長選考基準」による選挙の結果に基づいて評議会で行われる。今回の選挙は11月14日（金）の第1次投票（郵便による投票は、11月10日（月）から）と15日（土）の第2次・第3次投票によって行われ、開票は、評議会で選出された評議員8名の立会いのもとに行われた。

なお、今回の選挙資格者は、第1次投票は2,722名であり、第2次投票以降では1,718名であった。

#### 1 第1次投票

第1次投票における投票者数は郵便による投票者79名を含め、1,564名であった。

この投票は、2名連記で、投票総数3,128票、うち有効投票数は2,881票、無効投票数は247票であり、次の15名が第1次総長候補者に選ばれた。

尾 池 和 夫	古 澤 巖
喜 志 哲 雄	本 庶 佑
佐 藤 文 隆	本 田 孔 士
新 宮 秀 夫	益 川 敏 英
瀬地山 敏	万 波 通 彦
曾 我 直 弘	宮 崎 昭
土 岐 憲 三	三 好 郁 朗
長 尾 真	(五十音順)

#### 2 第2次投票

第2次投票は、第1次総長候補者15名に対して、単記により行われた。投票総数872票、うち有効投票数は868票、無効投票数は4票であり、次の3名が第2次総長候補者に選ばれた。

長 尾 真
佐 藤 文 隆
本 庶 佑 (得票順)

#### 3 第3次投票

第3次投票は、第2次総長候補者3名に対して、単記により行われ、投票総数908票、うち有効投票数は906票、無効投票数は2票であったが、開票の結果、いずれの候補者の得票数も有効投票数の過半数に達しなかったため、得票多数の次の2名について決選投票が行われた。

長 尾 真
佐 藤 文 隆 (得票順)



臨時評議会終了後記者会見する長尾 真教授

#### 4 決選投票

決選投票は、決選投票総長候補者2名に対して、単記により行われ、投票総数839票、うち有効投票数は834票、無効投票数は5票であり、各候補者の得票数は次のとおりであった。

長 尾 真	439票
佐 藤 文 隆	395票

この結果、長尾 真教授が得票多数を得て第3次総長候補者に選ばれた。

#### 5 選 考

臨時評議会は、選挙の結果に基づき、次期総長候補者として長尾 真教授を選考し、同氏はこれを受諾した。

#### 長尾 真教授の略歴

生 年 月 日	昭和11年10月4日生 (61歳)
昭和34年3月	京都大学工学部卒業
昭和36年3月	京都大学大学院工学研究科修士課程修了
昭和36年4月	京都大学工学部助手
昭和42年4月	京都大学工学部講師
昭和43年11月	京都大学工学部助教授
昭和48年10月	京都大学工学部教授
昭和61年4月	京都大学大型計算機センター長 (平成2年3月まで)
平成7年4月	京都大学附属図書館長 (平成9年3月まで)
平成8年1月	京都大学総長特別補佐 (平成9年3月まで)
平成8年4月	京都大学大学院工学研究科教授 (現在に至る)
平成9年4月	京都大学大学院工学研究科長・工学部長 (現在に至る)



## 名誉教授称号授与式

11月6日（木）午後1時30分から、総長室において総長特別補佐、医学研究科長（代理）出席のもとに名誉教授称号授与式が挙行され、今村貞夫元教授（大学院医学研究科）に称号が授与された。

また、11月28日（金）午前11時から、総長室において、医学研究科長出席のもとに名誉教授称号授与式が挙行され、吉田 修元教授（大学院医学研究科）に称号が授与された。

## 創立百周年記念展覧会

百周年記念展覧会が、「知的生産の伝統と未来」をテーマに平成9年10月28日（火）から11月24日（月）までの間、総合博物館、附属図書館及び多数のサテライト会場において開催された。

この記念展覧会は、京都大学の創立期からのあゆみと先人が築いてきた輝かしい知的生産の伝統を振り返るとともに、新たな百年に向けて取り組みつつある学問の最前線を紹介することを主題として企画された。

総合博物館においては、「古代への情熱」「工学事初め」「名建築」「哲学者たち」「東洋学の系譜」「学問の自由を求めて」「榮譽」「登山・探検とフィールド調査」「人文科学研究所と共同研究」「未来へ」と学問や発想の自由、探検など、京都大学の学風を紹介

する資料を展示し、附属図書館では幾多の有為な人材を輩出し、様々な創造性豊かな研究成果をあげてきた京大の成立ちを紹介する「創立期の京都大学」と昭和初期から現代までの京大生の様子を展示した「若人たち」の各コーナーを設置し、先人の知的生産の伝統と研究の最前線の一部を紹介した。

開催にあたっては各方面からご協力いただき、ノーベル賞やオリンピックの金メダル、著名研究者の直筆原稿などの貴重な所蔵品の出品をいただいた。

会期中、本学卒業生、名誉教授、教職員、学生、一般市民の延べ約32,000名が訪れた。

また、総合人間学部、人間・環境学研究科、理学研究科、工学研究科、さらに宇治キャンパスの研究所・センターなどで開催された。

## 京都大学国際教育プログラム開講記念パーティー

京都大学国際教育プログラム開講記念パーティーが、10月17日（金）午後6時から京大会館において国際教育プログラム留学生、総長、部局長及び担当講師等約70名の出席のもとに行われた。

パーティーは、井村総長及び瀬地山国際教育プログラム準備委員会委員長の挨拶、宮崎学生部長の乾杯で始まり午後7時半すぎ閉会した。

（学生部）



## 平成10年度大学入学者選抜大学入試センター試験の実施

平成10年度大学入学者選抜大学入試センター試験は、平成10年1月17日（土）及び18日（日）の両日に実施される。

このため、本学では1月16日（金）の授業が休止される。

試験の概要は、次のとおりである。

### 1. 期日及び試験教科

1月17日（土）

外国語、地理歴史、数学①、数学②

1月18日（日）

国語、理科①、理科②、公民

### 2. 試験場及び受験者数

農学部試験場（北部構内）、法学部・経済学部・工学部試験場（本部構内）、総合人間学部試験場（総合人間学部構内）、医学部・薬学部試験場（南部構内）及び関西文理学院試験場

合計 8,026人

（学生部）

## 厚生補導（SPS）担当教官研究会の開催

学生部では、毎年学生の厚生補導（Student Personnel Services）に関する諸問題を討議・研究するため厚生補導担当教官研究会を開催している。今年度も10月25日（土）～26日（日）に琵琶湖畔のホテルレークビワで井村総長、宮崎学生部長、新旧学生部委員、学生部職員等51名の参加を得、「今後の学生部・学生部委員会の在り方について」「厚生補導からみる学生への支援について」を主たるテーマに標記の研究会を開催した。

最初のテーマについては、笈田知義名誉教授（元学生部長）による「京都大学学生部と私」と題する講演の後、活発な討議が行われた。次に、「学生相談からみる京大生の実情」と題して学生懇話会の青木助教授による講演があり、学生が何を求め、どん



なことに悩み苦しんでいるか等京大生の実情を把握しながら、厚生補導の側面から学生に対してこれから何が支援できるのかについて意見交換が行われた。

（学生部）

## 部局の動き

### 井上民二教授追悼の集い

去る9月6日逝去された井上民二教授を追悼する集いが生態学研究センターの主催により、10月18日（土）午後1時15分から5時20分まで、農学部W-

100講義室において執り行われた。

（生態学研究センター）

### 故藤井 學教授追悼式

去る9月13日逝去された故藤井 學教授の追悼式が土木系専攻・地球工学科主催により、11月8日（土）午後2時から3時30分まで、工学部8号館大

会議室において執り行われた。

（大学院工学研究科）



## 日誌

1997年10月1日～10月31日

10月2日 新キャンパス委員会

- 附属図書館商議会

13日 京都大学春秋講義 月曜講義（以降の日程は、20日、27日、11月10日、17日）

15日 国際交流委員会

- 京都大学春秋講義 水曜講義（以降の日程は、22日、29日、11月12日、19日）

18日 京都大学市民講座（以降の日程は、25日、11月8日）

20日 アメリカ合衆国 オークランド大学  
Peter Gluckman 医学部長他1名来学、

総長及び関係教官と懇談

20日 京都大学事務電算化担当職員研修（24日まで）

21日 平成9年度京都大学監督者（係長級）研修（24日まで）

22日 大韓民国 ソウル大学 Jungho Sonu 学長他3名来学、総長及び関係教官と懇談

- 環境保全委員会

27日 核燃料物質管理委員会

28日 評議会

31日 保健衛生委員会

## 荣誉

## 田畑茂二郎名誉教授が文化功労者に選ばれる

田畑茂二郎名誉教授が平成9年度文化功労者に選ばれ、11月4日東京都のホテルオークラで顕彰式が行われた。以下に同名誉教授の略歴、業績等を紹介する。



田畑茂二郎名誉教授は、昭和9年京都帝国大学法学部を卒業、同大学助手、講師、助教授を経て、同20年同大学教授となり、国際法講座を担当した。その後、昭和41年から43年まで法学部長を務め、同

49年停年退官、京都大学名誉教授の称号を授けられた。退官後の昭和49年から55年まで京都府立大学学長に、さらに同56年から62年まで京都芸術短期大学学長に就任した。この間の昭和55年には、日本学士院会員に選ばれた。

同名誉教授は、国際法学の研究において顕著な業績を挙げた。その学問的特徴は、近代国際法の歴史的な性格と社会的基盤を明確にするとともに、現段階におけるその妥当の態様を実証的に分析する点にある。とりわけ、国際法の現実世界への関わりを重視する観点からその基本構造の分析を進め、精緻でかつ説得力のある国際法理論の再構成に努めた。戦後まもなく発表した国家平等思想の史的研究、構造変化を遂げた国際社会における国家主権の研究、および戦後いち早く注目した国際法における人権保障の研究などの先駆的な業績は、戦後の国際法学界に多大な影響を及ぼした。歴史的・思想的研究はとりわ

け著書『国家平等思想の史的系譜』や『国際法』（岩波全書）に、これを踏まえて展開された国際法の基礎理論の研究は『国際法Ⅰ』（法律学全集）に、人権の研究は『国際化時代の人権問題』に集大成され、そして田畑国際法学の全体系は『国際法講義上・下』にまとめ上げられた。

わが国国際法学界の最高権威の一人としてゆるぎない地位を確立した同名誉教授は、多くの有為の人材を育成するとともに、国際法学会理事長、日本学術会議第二部長、世界法学会代表幹事、日本平和学会会長、国際法協会日本支部理事長などの要職を務め、さらに第三次国連海洋法会議日本政府代表顧問および常設仲裁裁判所裁判官に就任し、近年はその設立に尽力した世界人権問題研究センターの所長を務めるなど、国際法の理論と実践の発展に大いに貢献した。

以上のような輝かしい研究業績と学術発展への指導的活動が評価され、同名誉教授は昭和56年に勲二等旭日重光章を受章し、また平成2年には京都府文化賞特別功労賞を授与された。これに続いて、このたび文化功労者として顕彰されたことは、誠に喜ばしいことである。

(大学院法学研究科)

## 左右田健次名誉教授、浅田浩二名誉教授、吉田 修名誉教授、長尾 真大学院工学研究科長が紫綬褒章を受章

我が国学術の向上発展のため顕著な功績を挙げたことにより、左右田健次名誉教授、浅田浩二名誉教授、吉田 修名誉教授、長尾 真大学院工学研究科長が、平成9年11月3日に、紫綬褒章を受賞された。これらの各氏の輝かしい業績を考えると、このたびの受賞は誠に喜ばしい。

以下に各氏の略歴、業績等を紹介する。



左右田健次名誉教授は、昭和31年京都大学農学部農芸化学科を卒業後、同36年京都大学大学院農学研究科博士課程を修了した。同37年京都大学農学部助手、同40年に京都大学化学研究所助教授に昇任、

同56年京都大学化学研究所微生物化学部門（平成4年から生体分子機能研究部門に組織変更）担当の教授に昇任した。平成8年、退官と同時に京都大学名誉教授の称号を授与され、同年より関西大学工学部教授となり、現在に至っている。

同名誉教授は40年近い年月にわたり、微生物化学

の分野で教育および研究の指導に情熱を注ぎ、微生物の特徴的な物質代謝に関連する各種酵素の基礎、応用の種々相を酵素化学、遺伝子工学、応用微生物学、応用生化学などの立場から総合的に究明し、微生物化学の分野における先駆者の一人として優れた多数の研究業績を挙げた。その研究成果は当該分野で国際的に高い評価を得ている。これらの功績により、昭和60年「新しいピリドキサル酵素の発見とその反応機構」で日本ビタミン学会賞、平成4年「アミノ酸代謝関連酵素の新しい機能と応用面の開発」で日本農芸化学会賞を受賞した。

（化学研究所）



浅田浩二名誉教授は、昭和31年京都大学農学部農芸化学科を卒業、同33年京都大学大学院農学研究科修士課程農芸化学専攻を修了後、同年京都大学食糧科学研究所助手、同43年講師、同44年助教授を経て、同60年教授となり、食糧生産研究部門を担当し、

平成7年改組により食糧生産環境研究部門植物光生科学分野を担当した。平成9年、退官と同時に京都大学名誉教授の称号を受けられた。同年より福山大学工学部教授となり、現在に至っている。

同名誉教授の研究分野は植物生化学であり、特に食糧生産の基となる光合成、また、これに強く影響を及ぼす活性酸素・フリーラジカル生物学の確立に大きな展開の道を拓いた。なかでも、食糧の生産、地球環境保持に欠く事のできない植物光合成に関し、光合成効率の向上のみが取り上げられていた当時、植物葉の示す光呼吸の生理的機能に着目し、ま

た、植物が過剰な光エネルギー、光ストレスを受けると活性酸素を発生させ、直ちに消去されなければ葉緑体は光障害を受けることを発見した。

さらに、葉緑体における活性酸素の消去経路と、それに関する諸酵素の性質を明らかにし、現在、この経路は浅田経路（Asada pathway）と呼ばれている。

同名誉教授は世界に先がけ、ヒトを含む生物での酸素毒性の重要性を説き、この分野における先駆的な役割を果たし、これらの研究業績に対して昭和49年日本農芸化学会農芸化学奨励賞、平成5年日本農芸化学会賞、同年フンボルト研究賞が授与された。

（食糧科学研究所）





吉田 修名誉教授は昭和35年京都大学医学部医学科を卒業，同36年10月より京都大学医学部泌尿器科学講座助手，同42年6月より講師となり，同48年8月教授に昇任した。

この間同名誉教授は24年3ヶ月にわたり泌尿器科学講座（現：外科系専攻器官外科学講座（泌尿器病態学領域））を担任し，平成9年10月末退官，京都大学名誉教授の称号を受けられた。11月より東亜大学大学院院長に就任し，現在に至っている。

同名誉教授は泌尿器病態学とりわけ泌尿器腫瘍学の分野において，患者の詳細な観察に基づいた緻密

な疫学的・生化学的研究手法に加え，近年の分子生物学的アプローチにより，泌尿生殖器癌の発生要因の解明とその早期診断・新しい治療法の開発などに関して世界をリードする多大な功績を挙げた。まず，表在性膀胱癌患者のトリプトファン代謝異常の可能性を指摘，次に，手描友禅職人らに対する疫学調査と動物実験に基づき，ベンチジン系アゾ染料のヒトに対する発癌性の証明を行った。これら一連の研究は癌の予防につながる研究として高く評価され，昭和55年には京都新聞文化賞を，昭和60年には高松宮妃癌研究基金学術賞を受賞している。その後，尿路上皮癌について分子生物学的手法を用いた研究により数々の先駆的業績を挙げた。

（大学院医学研究科）



長尾 真教授は，昭和34年京都大学工学部電子工学科を卒業，同36年同大学大学院工学研究科修士課程電子工学専攻を修了，同年京都大学工学部助手となり，講師，助教授を経て，同48年教授に就任し

有線通信工学講座を担任，平成8年大学院工学研究科に配置換，通信情報工学講座言語メディア工学分野担当となり，今日に至っている。この間，昭和44年9月より同45年10月までフランス・グルノーブル大学客員助教授を務めた。京都大学では，昭和61年より平成2年まで大型計算機センター長，平成4年より同6年まで評議員，平成7年より同9年まで附属図書館長，平成8年より同9年まで総長特別補佐を務め，平成9年より工学研究科長および工学部長を務めている。学外では，国立民族学博物館教授をはじめ，文部省学術審議会専門委員，郵政省電気通信技術審議会専門委員，国立国会図書館特別顧問，文化庁国語審議会委員，科学技術庁参与などを兼務してきた。

同教授は，画像および言語を用いた知的な情報処理に関する研究に力を注ぎ，パターン認識，画像処理，自然言語処理，機械翻訳，電子図書館の分野において優れた研究成果を挙げた。中でも，フィード

バック解析機構を導入した顔写真の認識システムや黒板モデルを用いた複雑な航空写真の解析システムは，人工知能的手法による画像処理の分野を開拓したものと国際的に大きな影響を与えた。また，自然言語処理，機械翻訳の分野では，昭和57年から4年間科学技術庁の機械翻訳プロジェクトを推進し，科学技術論文抄録の日英，英日翻訳システムを完成させるとともに，アナロジーによる機械翻訳という新たな翻訳方式を提案し，世界的に注目を集めた。最近では，マルチメディア情報処理，デジタル通信機能を包含した総合的情報処理システム研究として電子図書館研究を行い，Ariadneと称する電子図書館システムを開発した。

これら一連の業績に対して，IEEE Emanuel R. Piore 賞，情報処理学会より論文賞・創立20周年記念論文賞・功績賞，電子情報通信学会より業績賞・小林記念特別賞・功績賞，さらに通商産業大臣表彰，郵政大臣表彰，日本科学技術情報センター丹羽賞，国際人工知能財団学術研究賞，京都新聞文化賞，大川出版賞，が授与された。

（大学院工学研究科）



## 医学教育等関係業務功労者の表彰

山田昌夫技官（医学部技術部医学系技術長）、および、野村 宏技官（医学部附属病院臨床検査技師）は、医学に関する教育研究に係る補助的業務に関

し顕著な功労があったことにより、11月10日、文部大臣より平成9年度医学教育等関係業務功労者の表彰を受けた。

## 訃 報

今村 力造 名誉教授



本学名誉教授 今村力造先生は10月28日逝去された。享年80。

先生は、昭和17年京都帝国大学工学部工業化学科を卒業、同大学大学院で学ばれた後、同大学工学部講師、兵庫県立姫路工業大学教授、京都工芸繊維大学教授を経て、同42年京都大学農学部教授に就任、天然高分子化学講座（後に林産化学講座と改称）を担当された。同55年停年により退官され、京都大学名誉教授の称号を受けられた。

先生は天然高分子であるヘミセルロースキシラン

のコロイド学的性質ならびにその結晶構造解析、芳香族ポリエーテルエステル共重合繊維の合成とその物性、縮合系高分子の湿式紡糸、フィルムの二軸延伸等高分子化学、繊維化学の分野で優れた研究成果を挙げられた。さらに木材繊維の科学とその応用の立場から進められた研究においては、従来技術のみが先行していた製紙およびその加工の分野に学問的基礎を与えられ、製紙科学研究の礎を築かれた。

また社団法人繊維学会理事、評議員等の要職を歴任された。これら一連の研究教育活動、学会活動により平成2年には、勲三等瑞宝章を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（大学院農学研究科）

水野 孝夫 附属図書館情報管理課受入掛長

附属図書館情報管理課受入掛長水野孝夫氏は、11月10日急逝された。享年49。

同氏は、昭和41年、本学経済研究所に就職して以来、原子炉実験所図書掛長、国際日本文化研究センター文献資料係長、本学附属図書館相互利用掛長、文学部整理掛長等を経て、平成7年9月現職に就任、30年余りの永きにわたり図書関係業務に尽力され

た。また、平成8年には、京都大学永年勤続者表彰（30年勤続）を受けられた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

（附属図書館）





